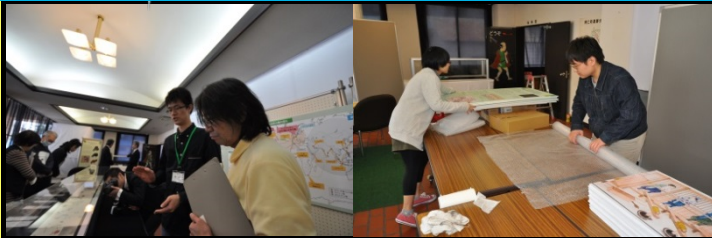


MINIMINI MINES

「阿仁鉱山の絵巻」 in 阿仁郷土資料伝承館 開催講演のレポートと終了のお知らせ

平成26年度 第1回
秋田大学鉱業博物館・阿仁郷土文化保存伝承館
連携展 「阿仁鉱山の絵巻」

期間	平成26年4月26日(土) ～5月25日(日)
場所	阿仁郷土文化保存伝承館



平成26年4月26日から、平成26年度第1回企画展「阿仁鉱山の絵巻」が、北秋田市阿仁郷土資料伝承館で開催されました。開催前日である25日には記念イベントが催され、関係者や地元の方々、報道関係者を含め約40人以上の方々にお集まりいただきました。またオープンイベント最大の目玉として、秋田大学国際資源学部、今井忠男教授によるギャラリートークが行われました。

ギャラリートークでは、阿仁で行われた銅製錬の一連の行程が絵巻に沿って詳細に語られました。わかりやすく丁寧な解説の中参加者の興味を引いていたのは、阿仁で作られた銅がどこへ行きどのように活用されていたのか、阿仁を飛び出し世界を巡る銅の旅路でした。当時阿仁で産出された銅は、品質、量ともに日本一でした。その銅は北前船に乗り長崎へ運ばれ、中国と東インド会社との貿易の「対価」として利用されました。当時アジアでは銅銭が利用されており、品質が良く、大量の銅が必要とされていたのです。そうして銅銭となった阿仁の銅は欧州との取引に使用

され、世界各地に広まっていったのです。阿仁から産まれた銅が世界貿易を担っていたという歴史を知り、参加された方は目を輝かせて聞き入っていました。

この阿仁鉱山の絵巻は鉱業博物館では一部のみ公開しており、全体の公開はしておりません。岩絵の具で描かれた絵巻は色鮮やかさこそ今でも衰えを知りませんが、描かれたその紙は紫外線などにより日々劣化していくため、公開をなるべく控えています。また皆様のお目にかかる日まで、楽しみにお待ちしております。

なお、第1回企画展「阿仁鉱山の絵巻」は5月25日に終了しました。会場となった阿仁郷土資料伝承館には、期間中のべ650人以上の皆様にご見学に来ていただきました。大変な盛況を受け終えることができ、来館くださった皆様に深くお礼申し上げます。



設置準備やギャラリートークの様子

北秋田市初公開
平成26年度 第1回企画展
阿仁鉱山の絵巻
(秋田大学鉱業博物館所蔵)

ギャラリートーク
平成26年 4月25日(金) 午後1時30分～
秋田大学国際資源学部 教授 今井 忠男 先生

阿仁郷土文化保存伝承館 秋田大学国際資源学部 秋田大学博物館
〒010-8502 秋田県秋田市手形字大沢28-2 TEL: 018-889-2461



鑛のきらめき 全国書店での取り扱い開始！ 全国で！

書店流通価格 1,620円(税込) | ISBNコード 978-4-904192-51-1 | ミュージアムショップ価格 1,470円(税込)

秋田大学鉱業博物館解説書「鑛のきらめき」の、全国書店での取り扱いが開始されました！今までは鉱業博物館ミュージアムショップのみでの取り扱いでしたが、秋田市内はもちろん、全国の書店でお買い求めいただくことが出来るようになりました。書店での書籍価格は1,620円(税込)となります。限定1,200部となりますため、お早めにお買い求めいただければ幸いです。また、鉱業博物館ミュージアムショップでも、引き続き取り扱いしております。

ミュージアムショップでの書籍価格は1,470円となります。皆様のご支援により、「鑛のきらめき」が全国に流通できるようになりました。解説書発売より、秋田県内はもちろん、遠方は九州からも解説書を購入したいというご連絡をいただいております。この場を借りて厚くお礼申し上げますとともに、これからもご支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



第1回サイエンスボランティア講習会を開催しました

平成26年5月12日（月）、今年度のはじめてのサイエンスボランティア講習会を開催しました。サイエンスボランティア講習会は、当館の案内をしているサイエンスボランティアの皆さんに当館をより良く知ってもらうため、年数回に渡り開催している勉強会です。今年度は新しく3名の方々がサイエンスボランティアに登録し、総勢37名のボランティアが博物館に協力しています。第1回目となる今回は、今年度から新しく設立された国際資源学部の学部長も勤められる佐藤時幸館長から、学部新設についての経緯と世界に対する役割、そして当館の根幹である地球の歴史についての2本立ての講習会でした。

国際資源学部は、最先端の資源学を学び、世界の資源フィールドで活躍できる知識・技術を養うことができる、日本初の資源学一貫教育を行える教育機関であると紹介されました。また地球の歴史については、海流の発端を担う深層流の話を中心に、地球の気象や大地はすべてが関連しているという、私たちの関わる資源の源となる講義内容でした。

鉱山学部、工学資源学部から続く歴史の新たな1ページを、そして博物館展示物の成り立ちである地球の歴史を聞くことのできる機会とあり、皆さん真剣に聞き入っている様子でした。



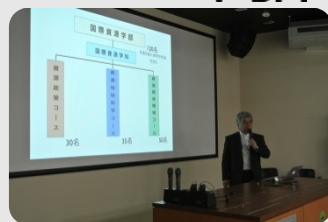
講演された佐藤時幸館長



講演中の様子



聴講するボランティアの方々

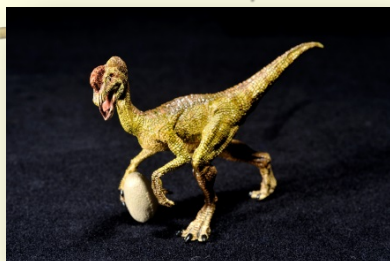


国際資源学部について説明する佐藤館長

ミュージアムショップからのお知らせ — 今月の恐竜模型 —

オビラトル 5月

— *Oviraptor* —



オビラトルは雑食で、体長2m程の小型恐竜です。最初に発見された化石が、プロトケラトプスの卵の巣のそばで発見されたことから、「卵泥棒」という名前を付けられました。しかしその後の研究で、その化石はオビラトルが抱卵していた様子で、「卵泥棒」ではなかったことがわかりました。

ミュージアムショップでは、今年度から新しく恐竜復元模型の取り扱いを開始しました！

製作しているフランスPAPO社は世界中で商品を販売している有名なメーカーです。この模型の最大の特徴は、ひとつひとつハンドペイントによる着色がされており、きめ細かく精巧にできているところです。時には恐ろしいとさえ思えるほど作りの良さは圧巻です。すべての商品は、形状、可燃性、有害物質検査すべての基準をクリアした安全な商品です。

鉱業博物館ミュージアムショップでは月替わりで恐竜模型を皆様に販売しています。今回は一挙に5、6月に販売している恐竜模型を紹介します。

是非ミュージアムショップにて精巧にできた実物に触れてみてください！

スピノサウルス 6月

— *Spinosaurus* —



スピノサウルスは体長約15m程で、獣脚類（二足歩行の恐竜）では最大級の恐竜です。映画ジュラシックパークⅢでは、ティラノサウルスに勝利する程の力を持つ恐竜と描写されています。しかし実際、身体は大きいこそすれ、骨格が小さく、魚食であるスピノサウルスの方が弱いと考えられています。

博物館実習が始まりました



平成26年度博物館実習が始まりました。教育文化学部4年次の2名が学芸員資格取得のため、展示やイベント業務、館内案内などに取り組みます。今年度はまず始めに新着標本の展示に取り組み、古い新着標本の撤収から、標本の説明文の作成、設置に至る一連の行程を行いました。実習生が取り組んだ新着標本は、博物館1階ホールに展示しています。説明文の作成が大変だったと話していた実習生の成果を是非ご覧ください！

第1回市民向け開放講座のお知らせ

仙北市田沢供養沸で発生した土石流の素因を考える

講師：丸山 孝彦 名誉教授

日にち：平成26年6月10日（火）

時間：14:00-15:00

会場：鉱業博物館3階 講堂

※当日の聴講・入館は無料です。

